

幼児の運動能力向上に係る事業

一幼児が幼稚園、保育所または家庭等で多様な動きを体験して運動能力の向上が図られるよう、幼児の運動機能に関する保育者の理解を深め、支援方法を習得する一

主な連携先・メンバー

堺市教育センター能力開発課幼児教育グループ/大阪国際大学短期大学部幼児教育学科講師 玉井久美代氏

活動地域

堺市内

活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業

活動期間

2020年度～継続中



#幼児 #運動遊び #運動能力

連携にいたる経緯

2019年に堺市教育センターより、遊びを通して幼児の運動能力の向上を図りたいという要請を受け、連携に至った。



活動内容

本事業は、講義と実技で構成されている。

講義では、「幼児の運動能力を高める運動遊び」と題して、現代っ子の特徴、運動遊びの効果、幼児の身体活動量および運動能力が幼児の性格に及ぼす影響等について、データを用いて詳細に解説した。

実技では、はじめに「幼児は毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすこと」が重要であること、その際には、①様々な遊びによって多様な動きを経験すること、②楽しく体を動かすこと、③発達に応じた遊びを提供すること、といった文部科学省の「幼児期運動指針」を基に解説した。その後、幼児期に身につけておきたい36の基本的な動作（立つ、起きるといったバランス系の動作、歩く、走るといった移動系の動作、持つ、支えるといった操作系の動作）を解説し、「遊びが運動に、運動が遊びに」という方針の下、様々な運動遊びによって多様な動きを紹介した。



活動の成果

- ▶ 講義では、幼児の運動能力の向上には、幼児が「運動することは楽しい」と思える指導の工夫が重要であることが分かった
- ▶ 実技では、様々な体の動かし方や一つの運動遊具で多様な動きを体験し、支援方法を習得することができた
- ▶ 講義と実技があることによって研修が深まった

今後の課題・目標

- ▶ 本事業の一つに「保護者と子ども対象の講習会」が企画されている。これは、幼稚園または保育所に出向き、親子で楽しむ運動遊びを紹介する事業である。2020年度は一つの幼稚園から希望があったが、緊急事態宣言中のため中止となった。2021年度以降は是非取り組みたい。

連携先からのひとこと

幼児の運動機能の発達に関する講義とともに実技があることで、保育者が実際に多様な動きを取り入れた運動遊びを体験することができ、幼児期における効果的な運動遊びに対する理解が深まった。

(堺市教育委員会事務局 教育センター 能力開発課)

人間健康学部 教授 涌井 忠昭 Wakui Tadaaki



人間健康学部では、レクリエーション支援論、福祉レクリエーション論等の授業を担当。前任校では、幼稚園教諭および保育士養成の教育に従事し、「小児体育Ⅰ・Ⅱ」、「保育内容研究Ⅲ(健康)」(当時)を担当していた。